



R6.3.11

令和5年度 朝日中学校 学校だより

# 朝のっこ

鶴岡市立朝日中学校

TEL:53-2092

Fax:53-2091

Mail⇒



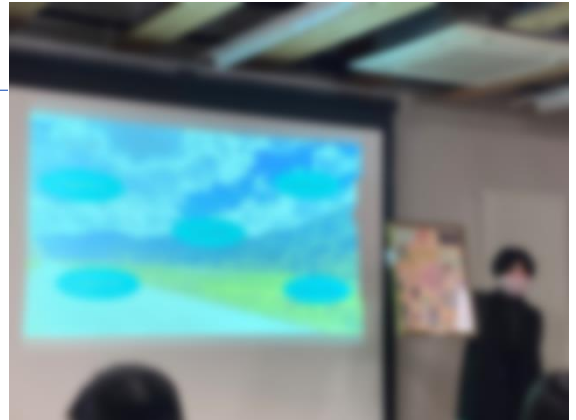
## 「精一杯がんばれ!!」 校長講話 2016年度卒業 山口さんのお話を聴く会

学年閉鎖の影響で延期されていた本校卒業生の山口さんのお話を聴く会を3月1日に1,2年生を対象に実施しました。

山口さんは、この春、東京の大学を卒業し、県内で小学校教員として勤務する予定になっていて、教員を目指すことになったきっかけや、これまでずっと心に留めてきた自身の「核」になるもの等についてお話いただきました。以下、任意で実施した生徒アンケートの回答の一部です。

### 【生徒の感想】

- 将来の夢に関して、今から何をするか、どんな計画を立て、どう努力するか考えて、これから頑張るって夢に向かいたいと思った。
- 朝日に対する思いがすごく伝わりました
- 将来の夢を思い切って言えるようになった。
- 将来の夢はいまだにわからないが、テスト前の時間の使い方について、目標をもって計画して努力できるようにこれから頑張りたいと思った。
- これからの自分の未来のためになる話でした
- プランを立てて努力するのが大事だと思った。
- 自分は、計画をたてるのが苦手ですが、計画を立てることで見通しが持てることや、努力の大切さを改めて痛感しました。
- 自分の夢のために、小さい頃から努力することは簡単じゃないのに自分で大切にしている言葉をモチベーションにして頑張れることはとてもすごいことがわかりました
- 勉強に対して、勉強するのが好きなのですが家では、疲れてしまって寝ていたいという気持ちになってしまって勉強がおろそかになってしまうので山口さんは、時間を上手に使ってすごいと思いました。やったことが結果に出ていてすごいと思いました。
- 英語の弁論大会をきっかけに夢に向かって頑張っていてすごいと思った。



### 【4月から頑張りたい、と思ったこと】

- 提出物を期限内にすべて出すこと
- 新しい学年が入ってくるので先輩として頑張りたい



- 下学年の手本になれるような二年生
- 生活リズムを見直して時間を有効活用して学習につなげる
- 外部活動を頑張る。4月から後輩ができるからもっと練習してもっとうまくなりたいから。
- 学習、お手伝いを頑張る!!!!
- あきらめずにたくさん挑戦する。
- お絵かき、勉強、ゲーム、家事
- 家庭学習の量を増やすことや提出物の期限を守ることです。

○早寝早起き コツコツ勉強

○得意な理科だけでも頑張っ、いい点とりたい

○目標に向かって頑張りたい

○子どもを辞める

山口さんのお話を聞いて、僕自身山口さんのように頑張ってきたかな、と考えると、正直そうでもなかったな、と思います。かろうじて頑張った！と言えるのは高校の部活動くらいで、それ以外のことは、その時その時は頑張っていたつもりですが、山口さんのお話を聞いた後だと、「頑張った！」と言えるほどでもないかな、という気がしてました。でもお話を聞いて、勇気というか、元気というか、とりあえず目の前のことを「もっと頑張らなきゃ！」と思いました。山口さんほど、とはいかないまでも、自分のできる限りのことはやらなくちゃ！と。

ちなみに、僕は小学生の頃、ぼんやりと「教師もいいかな」と思っていました。将来の仕事として明確に教員を考えたのは、高校3年生の時、受験する大学を決めるときでした。

家の都合で、受験できる大学は国公立の2校だけ。その時教員のほかに「やってみよう」と思っていた仕事に就くための大学と、教員になるための大学を1つずつ受験し、教員になるための大学は合格し、もう一つは不合格だったので、必然的に教員になるための大学に入学し、教員採用試験を受け、2回目で合格して教員になりました。今は教員になることができ、本当によかった、と思っています。

でも、30代後半のとき、一度だけ別の仕事に就きたいと思ったことがありました。

教員って「未来をつくる仕事」だと思いますが、教員をやめて就きたいと思った仕事は「今すぐ人の役に立つ仕事」。でも、その仕事をするためには、もう一度大学に入りなおさなくてはならなかったし、家族のことを考えると、そこまで決断できませんでした。今「あの時教員をやめていたら」、と考えることがないわけではありませんし、教員は大変だ、という話を最近よく聞きますが、教員になったことは全く後悔していません。

ちなみに教員をやめて別の仕事に、という話は、家族と当時担任をしていた子に、ちらっとだけ話をしたことがありました。家族にはあきれられました。後日、そのことを話した子がその職業になるための大学に入ると聞き、自分のことのようにうれしかったことを覚えています。

## 2523

ちょうど、君たちが生まれた頃の2011年の3月11日、東日本大震災が起きました。

当時の僕は、3年生の担任をしていて、卒業式練習の最中だった午後2時46分にあの震災が起きました。

4年後の2015年の3月に2584名だった行方不明者は、2021年の3月には2525名となり、昨年3月には2523名になっています。この震災で亡くなられた方は、避難生活の疲労や持病の悪化等による「震災関連死」で亡くなった方を合わせると、2万2212名にのぼるそうです。

約2か月前にも大きな地震を目の当たりにした私たちは、被災地の近くに暮らす者として、こうした現実を心に留めながら、生きていかなければならないんじゃないか、と思います。

2011年の僕が「自分にできることは、」と考えても、あの時は何も思い浮かびませんでした。

多少の不便はあったとはいえ、帰れば家族の待つ家がある僕が、被災した皆さんの目の前に立つこと自体、嫌な思いをさせてしまうんじゃないか、と考えると、現地に行くことさえできませんでした。

行動に移すことすらできなかった僕ができることは、忘れずにいることと、一生懸命生きることかな、と思うようになるのに、恥ずかしながら数年かかりました。

改めてあの時のことに思いをはせると、みんなで今日の日を迎えられることを幸せに思えるのです。そして君たちには、これからどう生きていくのか、生きていくべきなのかをよく考えて卒業式や4月を迎えてくれたらうれしいです。

僕は今まで、自分の生き方について深く考える機会が4回ありました。1回目は15歳のちょうど今頃、中学を卒業した春休みでした。

そしてこの東日本大震災は4回目に当たります。